

平成26年8月18日(月)

老球の細道49号

文武両道とバスケットボール

会津バスケットボール協会理事長 室井 富仁

かつて福島県体育協会が主催する福島県スポーツ指導者研修会に参加して、「スポーツを通じてどんな能力が身についたか」という講義を受けたことがある。何人かの指導者の方が指名されて発表した。多くは、「自信」「自立心」「責任感」「創造力」「努力する気持ち」「挑戦する気持ち」「協調性」「コミュニケーション能力」等であった。これらの能力はまさしく人間が社会人として身につけなければならない能力であり、人として生きる力になるとても大切な能力である。ドイツでは「スポーツは子どもを大人にし、大人を紳士にする」とも言われている。

「若い男女はスポーツでミスを犯すことで人生の糧となる貴重な教訓を学ぶ。健康的で楽しい活動から社会的な行動を身につけ、社会に溶け込み、自分を知り、他者を尊敬することができるようになる。若者はスポーツを通じ積極的に社会人となるための準備を行うのです」(アドルフ・オギ：開発と平和のためのスポーツ国連事務総長特別顧問)

このようにスポーツをするとすばらしい副産物が出てくるが、残念ながらスポーツそのものはまだまだ社会的に評価は低い。かつて日本では、「スポーツ」「平和」「水」「空気」はタダで手に入ると言われていたが今はどうだろう。進学校などではスポーツを中心とした部活動は、どちらかという人评价が低く、じゃまもの扱いにされやすい。「勉強のさまたげになる」「疲れて授業中居眠りばかりしている」「疲れて寝坊し、遅刻ばかりしている」「授業の妨げになるから朝の自主トレーニングは禁止」等々。

数年前、東京大学野球部のOB達がなんとか母校を神宮球場で優勝させたいと、野球のうまい高校生のスカウト活動を始めたことがあった。進学校で、かつ甲子園に出場できそうな実力のある「文武両道」の野球部員がターゲット。ターゲットになった高校生たちに部活動と勉強の両立するための時間の使い方を伝授した。

- 1・学校の授業を真剣に受けること。学校にいる7時間をぼんやりと居眠りするのはもったいない。授業中は油断せず、自分ならどう教えるか、先生になったつもりで考えなさい。
- 2・体力があること。うまい人のマネを繰り返すのが苦でないこと。
- 3・夢にまっすぐであること。
- 4・野球に限らず、部活動で身についたこれらの能力はきっと受験で有利になる。自分で限界を作らず、部活動も受験も両方欲張ってほしい。くたくたになるまで練習したように、息が切れるまで勉強してみて。最後まで部活動を頑張った方が、受験には勝てると思っている。

今、小、中、高校を問わず、多くのバスケットボール選手が部活動と勉強の両立を図られるようになれば、部活動、バスケットボール、そしてスポーツ活動の関心も評価も高まるようになるだろう。世の保護者方も学習塾に高いお金をかけて通わせるより、スポーツに高いお金をかける時代がやってくる。スポーツはより良き人生を歩むのに決して邪魔者になるものではない。私は、人生において最も大切なことはすべてバスケットボールから学んだと自負している。